

緩和ケア相談をご利用ください

在宅療養中の方、入院中で在宅を考えている方を対象に看護師のよろず相談を行っています。当院の受診を前提としなくても、又ご家族だけのご相談でも大丈夫です。当診療所で行う方法の他、看護師が出向く出張相談も行っています。

当診療所に来ていただく

- ・外出や通院ができる方。
- ・本人の前では言いにくい相談をしたい。
- ・診療所がどんな雰囲気が知りたい。

入院中の病室へ伺う

- ・家に帰れるか分からないが、話を聞きたい。
- ・家でできる治療、介護の方法を知りたい。
- ・病院のソーシャルワーカーより紹介された。

ご自宅に伺う

- ・車の運転が出来ない。交通手段がない。
- ・介護で長く家を空けられない。
- ・外出できる体調ではない。



相談内容はこのようなことがあります

訪問をお願いしたら、どんなサービスをしてくれるの？

入院中の家族が「家に帰りたい」と話している。不安なので具体的な事を聞きたい。

緩和ケアで、この苦しさをとってもらうことは可能？

1人暮らしでも家に帰れる？

現在、治療を続けている。これからどうしたら良いか悩んでいる。

お金はどれくらいかかる？

今の苦痛をなんとかする方法はないか？

家族は仕事を続けたい。それでもなんとかなる？

患者さんが自宅に帰りたくても家族の不安が強いこともあります。せん妄、急な症状への不安、何もかも不安と考える方もいます。訪問する看護師が直接お話しすることで不安が軽減されることもあります。是非ご連絡ください。相談に費用はかかりません。ご都合を伺い予約をします。



まずはお電話ください

TEL 027-353-3353

(月～土 8:30～17:30)



最近印象的だったご家族をご紹介します。

高齢者の姉妹二人暮らし、患者さんは家にいたいけど、ご家族はどうやって支えてあげたらいいのかわからない。途方にくれ民生委員さんに相談したら、高齢者あんしんセンターへ繋いでくれ、当院へ紹介になりました。高齢者を支える介護に関わる人達の存在の大きさが増していることを日々実感しています。

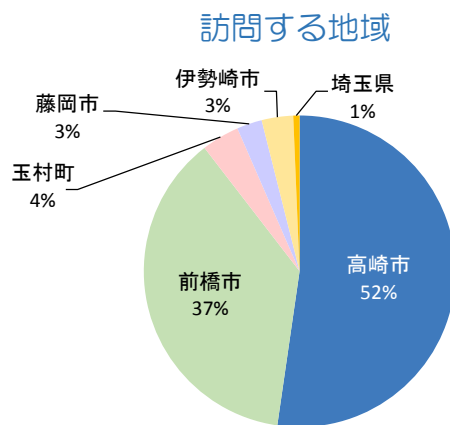
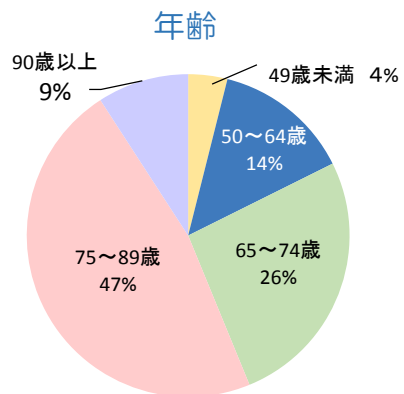
患者さん、ご家族の思いを尊重しどのような選択肢があるのか共に考える。開業当初から変わらない当院の姿勢です。その方の想いをきちんと尊重する姿勢をお伝えするだけで、不安や苦痛に満ちた表情が安らかに変わることも少なくありません。

在宅緩和ケアとは症状コントロール以上に思いに寄り添い話し合うことが主な内容といえます。令和の時代になっても、変わりゆく社会に対応しながら、患者さんご家族の心が温かいものであるように力になれる診療所であり続けたいと願っています。

院長 竹田 果南



いっぽでは、ご本人とご家族の意思を尊重し、話し合う機会を大切にしています。意思は状態の変化と共に変わっていくものなので、繰り返し話し合うこと、キーパーソン以外のご家族の気持ちも確認すること、病状や見通しについてわかりやすく伝えることなどを心がけています。



Aさん(男性)のケース

高齢ご夫婦世帯、子どもは市内在住
癌診断後、治療希望せず経過を見ていた。通院困難のため紹介。
訪問開始に、本人ご家族ともに喜ばれる。

経過

訪問開始、薬の調整の提案に・・・

今まで通りかかりつけ医の通院、薬継続を希望

介護用ベット提案に・・・

「亡くなった人のベットは使いたくない」
(これまでの生活は変えたくない想いが強い)

ポイント

- ◆ 初回で全てが説明、確認できるわけではなく繰り返し病状認識、方向性の確認が必要
- ◆ 介護面でよいと思われることも本人の思いに沿わないことは無理に進めない方がいい場合もある

緊急対応「何かあったら当院連絡」の説明に・・・

「苦しいのを見ているのは辛い。救急車呼んで良いか」「最期まで家で見ることは考えられない。入院はできませんか？」と妻。お子さんも負担を心配し入院を考える。

- ◆ 救急搬送の確認は、具体的なケースを説明の上確認が必要

今後の方針確認・話し合い(本人、妻、子)

『最期は病院』と妻の思い強く、ぎりぎりまで在宅、無理になったら入院の方針となる。

- ◆ 普段見ている家族以外のご家族ともできる限り話し合いが必要

<状態が変化！再度病状説明、方針を確認>

「妻のそばにいたい」本人より心からの言葉を受け、「いいよ」と妻が受け入れる。
子どもと共に最期まで家で見る方針と転換。

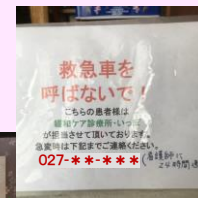
- ◆ 心からの思いは何よりも人を動かす

本人の希望通り自宅で最期を迎える「お父さんの希望通りにできて良かった」とご家族の言葉

工夫

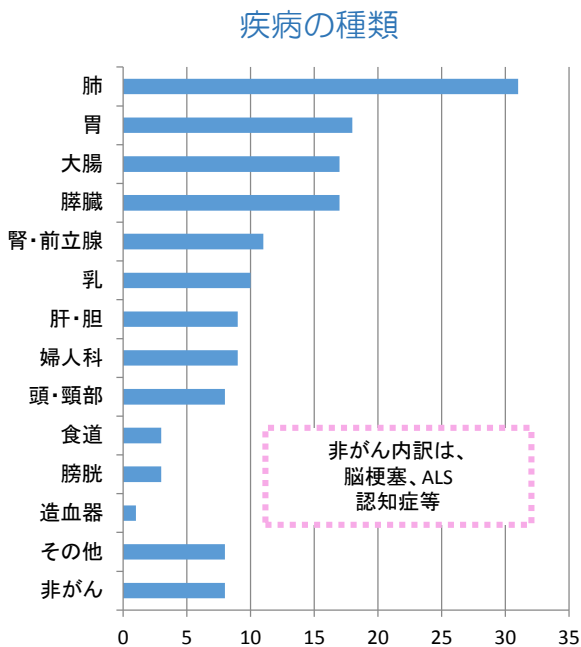
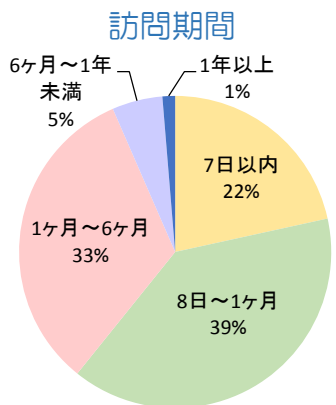
「救急車を呼ばないで」

お一人暮らしの方が「最期まで自宅で過ごしたい」と希望されるケースがあります。ご本人の意思を、離れて暮らす血縁者、介護関係者、本人の信頼される方と、話し合い想いを共有することは、ACPであるといえます。
ふいに訪問した方が、本人の状態をみて慌てて救急車を呼び、望まない救急搬送となるのを防ぐため、同意を得て張り紙をしいっぽに連絡が繋がるようにしています。



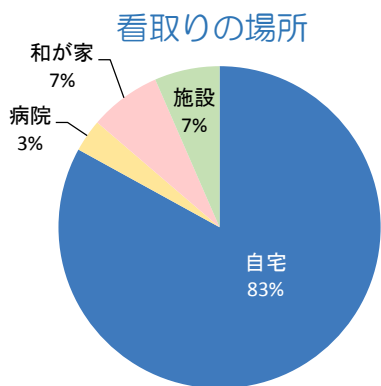
連絡ノートも必需品！

男:女 53%:47%



非がん内訳は、
脳梗塞、ALS
認知症等

去年1年間にお看取りさせていただいた患者さんは、153名でした。
ご本人とご家族、支える方々が安心して過ごせるようにと心がけています。



『和が家』はホスピスの施設です